

樹里安だより

1996年
9月
VOL.1



けやき「むさしの1号」

ケヤキ (*Zelkova Serrata Makino*) はニレ科ケヤキ属に属し、種名のセルラータは鋸歯のあるという意味で葉の形状を表します。日本においては本州、四国、九州など、各地に見受けられ竹などとともに植栽され屋敷林の主体をなしています。特に関東地方においては夏によく繁茂し日光をさえぎり、冬は落葉して日当りをよくするとともに、防風林や並木また建築材として多く利用されています。「むさしの1号」は、埼玉県振興センターで多様化した緑の中で幅の限られたスペースに枝が広がらず、管理の少ないケヤキとして、優良系統普及促進事業として育成と普及に取り組んで来た成果の一つです。

けやき「むさしの1・2号」育成と普及へ取り組みより

峯の八幡神社のイチョウ

木村 四郎



イチョウ科イチョウ属、いわゆる一属一科一種、雌雄異株でメスの実がギンナンである。茶碗蒸しには必ず1個入っている。そして、やや三角形をしたのがメス株になると言われているが確かではないらしい。

イチョウはその昔シダの類から進化し、1億2千万年も古い昔から同じ姿のまま生きてきた樹である。日本にも化石が出ることから、遠い昔はあったが自生はしていない例のひとつとされている。

そのイチョウがいま、この峯の八幡にもしっかりと根を下ろしている。あたかも大地を抱え込む如くに枝葉を繁らせてきたのである。目通り8.0m、シメナワを張り巡らせた幹は皮がむけ、空になった根方の中の方に、何かしら神が住んででもいるような気がする。神秘的というか、不思議な自然の力を感じとることができる。中心部分のおおもとは5mほどのところで朽ち、それを抱くような形で、後からでた木が伸び、今は古い部分と混然とし、ひとつの大樹を形作っているのである。高さは神社の屋根をはるかに越えているところから、30mはあろうかと思う。

ここで樹齢推定の根拠になろうかと、峯八幡の縁起を記しておく、平安時代の天慶年間(938~947年)に源経基の創建と伝えられ、かつては川口新郷・安行から草加にかけての谷古田領32ヶ村の総鎮守に列せられた由緒ある神社である。因みに御神体は鎌倉期(弘安5年)1282年銘の木造僧形八幡座像である。

伝説によると、昔この神社に参詣した若狭の八百比丘尼がひと休みしたあと、置き忘れていった杖が根付いて成長したものだという。八百比丘尼は年令800才になりながら15、6歳の美しさを保っていた尼僧だそうである。昔の人がどこまで信じていた伝説なのか、あてにはならないが。

神社の人に伺ったところ、専門家に見てもらった結果ではおよそ樹齢700年ということらしい。御神体の八幡像が見つかった弘安の頃ということになる。しかし枯れかかったり損傷したり、またそのヤゴが、あるいは植え替えたりと考えても、確かに700年は越えているのではなからうか。

イチョウは漢字で「公孫樹」と書き、親が植えても孫の代にならなければ実を結ばない。食べるのは孫の代という表現だという。ギンナンは銀杏の中国音からとったものか。ちなみに学名は「Ginkgo」である。

小石川植物園には、精子発見のイチョウがある。目通り4m、樹齢300年の大樹である。それまでは、種子植物はすべて花粉管が伸長し、造卵器に達して授精するものと思われていただけに、世界中の学会に大きな反響を起こした。

峯の八幡神社のイチョウも、開葉を待つ新芽がかなり大きくふくらんできた。夏の緑、秋の黄葉、それぞれの素晴らしさが目に浮かぶようである。

裸木の枝打ちならす峯の風

その1 緑化樹のいろいろ

我が国で、緑化樹として利用されている樹木は、およそ300種余りあるといわれています。その中から代表的なものを、それぞれの特徴によりわけてみました。

葉の美しい木

我が国は、四季が明瞭に区別されています。樹木の葉、春の芽ぶき、秋の紅葉のように、季節の移り変わりをいち早く教えてくれます。

❖ 葉の美しい木

シュロ、タイサンボク、タブ、タラヨウ、トチノキ、ハクウンボク、バクチノキ、ハリギリ、フヨウ、プラタナス、ハウノキ、マテバシイ、ムシカリ、ヤツデ、ユズリハ、ユリノキ、クルミ等

❖ 葉色の美しいもの

常緑樹で葉の美しいもの

カナメモチ、ナンテン、クスノキ、モッコク、ホルトノキ、ギンマサキ、モチノキ、クロガネモチ、ユズリハ、アラカシ、シラカシ、ヤマモモ、ヒイラギナンテン、ソテツ等

落葉樹で紅葉の美しいもの (紅・赤色系)

ナンキンハゼ、ニシキギ、ハナノキ、ハナミズキ、ヤマボウシ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、レンゲツツジ、ナナカマド、ハゼノキ、メギ、チャンチン等

落葉樹で紅葉の美しいもの (黄・橙色系)

イチョウ、カツラ、カラマツ、ホオノキ、ポプラ、ユリノキ、イタヤカエデ、コナラ、ラクウショウ、メタセコイヤ、トウカエデ、ケヤキ、ミズナラ等

タラヨウ



ユズリハ



ハナミズキ



ケヤキ



お知らせ

※川口の伝統産業である、植木、花と造園の特産農業の振興を図り緑化産業のための各種情報の収集、提供を行う機能をもつ、緑化関係の総合施設として展開しています。
四季を通して、緑を見て、触れて、贈る喜びを体験できるように、常時展示販売を行っています。花と緑に関する各種の展示会やイベントも開催しております。
会議室及び日本間、レストランのご利用もできます。皆様のご来所をお待ちしております。

※利用時間 AM9:00~PM10:00

※問い合わせ 川口市緑化センター 川口市安行領家844-2

☎296-4021

